

# 大規模木造倉庫を2棟新設

## ザイソウハウス

### 愛知県 飛島村に モデル物件、割安感訴求

材惣DMBホールディングスグループのザイソウハウス（本社名古屋市中区正木3の1の8、伊藤卓哉社長、電話052・212・7220）は、愛知県飛島村に大規模な木造倉庫2棟を新設した。近年は木材価格が落ち着いており、高騰が続く鉄骨造と比べて建設コストが4割ほど割安となる。木造倉庫のモデル物件として活用し、拡販を図る。

（武居皇弥）

木造倉庫はいずれも飛島村1の25の1に建設した。

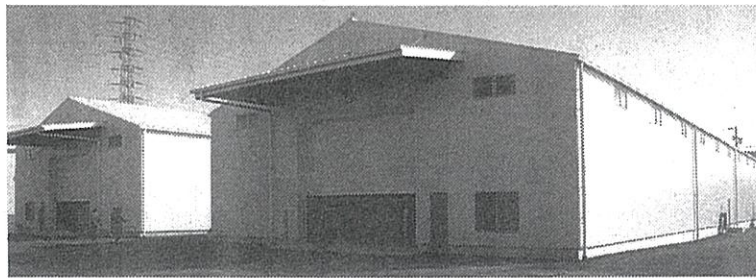
平屋建てで、1棟当たりの面積は約990平方メートル。約90トンの木材を使用している。2棟合計の投資額は約2億4千万円。今後、モデル物件としてPRに活用するほか、建屋は物流会社

貸し出す予定だ。

従来の倉庫は、コスト面などから鉄骨造がほとんどだったが、鉄骨価格の高騰によって木造の競争力が高まっている。カーボンニュートラル推進に向けた、建築物の木造化・木質化に活用できる国の補助金もある。



木材をふんだんに使用した倉庫の内部



飛島村に新設した大規模木造倉庫

る。

木材は鉄骨と比べて4〜5割ほど軽量化が可能なため、基礎工事の費用を抑えることができる。また、住宅向けなどで使用される量産材を用いた設計により、コストメリットを高めている。性能面では、地震や台風などの災害に対して構造計算上同等のほか、多くの木材を使用するため、炭素を固定することで環境配慮へ貢献できる。

同社は1978年の設立。木造の戸建て住宅を中心に手掛けていたが、住宅市場が縮小する中、倉庫だけでなく工場、事務所など非住宅分野での提案を強化している。

担当者は「これまではコストが高いイメージだった木造だが、現在ではコスト、性能両面で競争力がある。年に2、3件のペースで受注を獲得したい」と話している。